

## 総合図書館ラーニング・commonsについて

広瀬 雅子

### 1. はじめに

平成 27 年 4 月 6 日、凜風館コラボレーションcommons、IT センターサテライトステーションに続く学内 3 番目のcommonsとして、千里山キャンパスの総合図書館にラーニング・commonsが完成、オープニング・セレモニーが行われた。学長、図書館長の挨拶の後、テープカット、見学会と続き、大学執行部、法人からも多数出席頂き盛況の内に終えることができた。

### 2. 経緯

お茶の水女子大学や大阪大学の先行事例や、同志社大学良心館ラーニング・commons、関西学院大学アカデミックcommonsの例にもあるとおり、近年の大学図書館においてラーニング・commonsの設置は、アクティブ・ラーニング—学生が主体的に問題を発見し解を見いだす能動的学習—を支援するための施設として重要視されている。本学でも、平成 22 年度に学長の下に設けられた「図書館のあり方検討プロジェクト」で「教育と図書館」の具体的な施策として、ラーニング・commonsの設置が提案された。

平成 25 年 10 月図書館長の提案により図書委員会の下に専門部会が設置され、6 回の審議を経てまとまった設置計画概要を学長に報告、了承を得て、ラーニング・commons設置への具体的な動きが開始された。平成 26 年度に館内で若手職員を集めてプロジェクトチームを結成し、詳細を詰めて文科省の「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」および「ICT 活用推進事業」への補助金申請を行い、その承認をもって改修工事を始めることができた。ただし、当初計画案に盛り込まれていたすべての機能を実現するには想定していた以上の予算が必要となることから、一部の機能については、今後の検討課題として見送ることとした。

### 3. 設置場所について

ラーニング・commonsの設置場所として図書館内で当初から想定されていたのは東閲覧室であった。この場所は平成 23 年 12 月にそれまでの事務室を閲覧室に改装したばかりであり、期間を置かず改装することはためられたが、もともと事務室として作られた場所でエリア内での声が外にもれにくくcommonsに向けた構造だったため、再度の改装を行うこととなった。改装にあたっては、東閲覧室設置当時の目的であった座席数の確保が強く求められ、図書館としては改装後の座席の再配置に頭を抱えることになったが、何とか工夫し座席を振り分けることができた。

アクティブ・ラーニングを可視化して、学生に学習の動機付けを与えるためのしかけとして、1 階北側中央部にワークショップ・エリアを設置することが計画されたが、それにはいくつもの困難が伴った。ここは東閲覧室のすぐとなりのエリアだが、2 階から見下ろす風景が図書館を紹介する写真に必ず取り上げられるような見事な吹き抜けスペースであり、防音および遮光の問題があったからである。改装工事に当たっては様々な対策を施し、最終的に防音はほぼ問題ないところまで持って行けたが、遮光については、できうる限りの装置を用意したものの、ガイダンスなどでの PC 画面の投影には問題ないが、映画などの動画を上映するには少し厳しい状況となっている。

### 4. 備付機器と什器

備付機器は表 1 の通り貸出用ノートパソコン、短焦点プロジェクター、電子黒板、ワークショップ・エリア用の大型スクリーンとそれに伴う AV 装置、マイクである。

貸出用ノートパソコンは、IT のサテライトステーションと同様に仮想デスクトップを構築する方式を

表1 機器一覧

種別	数	利用場所	利用方法
ノート PC	1	コモンズ・カウンター	カウンターでの管理業務用
	6	ライティング・エリア	ライティング指導をする TA 用
	50		貸出用
DVD ドライブ	3	ラーニング・コモンズ 各エリア	ノート PC で DVD を利用するため
プロ ジ ェ ク タ ー 等	短焦点 プロジェクター	6	ノート PC の画面を投影できる
	プロジェクター 一体型	2	ワークショップ・エリア
	ホワイトボード	1	設置場所での利用 ノート PC の画面を投影できる 電子黒板機能
	電子黒板	1	
操 作 卓	マイク	3	ワークショップ・エリアでの利用
	DVD プレーヤー	1	
大型スクリーン	1		

とることにより、ソフトウェアの管理を簡便化し、専用無線LANの設置による回線の確保を図った。また利用者の持ち込みPCに対応するため、従来のKU Wi-Fiのアクセスポイントをラーニング・コモンズ全域に用意することとした。

机と椅子はすべてアクティブ・ラーニングにふさわしい可動式とし、特にラーニング・エリアについてはいろいろな組み合わせができるような形のテーブルを用意した。(表2参照)

討論内容をまとめたり、パソコンの画面をプロジェクターで投影したりするためのホワイトボードを、数人のグループに対して各1台を用意した。ワークショップ・エリアでは、集合型のイベントに加えて、数人毎のグループに分かれてのワークショップ型のイベントもできるようにしている。

## 5. 工事期間について

工事に当たっては利用者への影響を最大限抑えるため、騒音の発生する作業を大学入試期間と春休み中の日曜日、開館前、閉館後の時間帯に行うこととし、工事のための休館をせずに改装工事を終わらせることができたが、残念ながら、昨年度からテスト的に実施した入試期間中の教員・大学院生への利用サービスは中止せざるを得なかった。

また、工事に先立ってワークショップ・エリア予定地にあった雑誌架を移動するため休館日の前日から新着雑誌の利用ができなくなったこと、工事期間中座席位置や時間帯によっては若干騒音が発生したこと、北口通路(旧研究者専用通路)を閉鎖したこ

となど、利用者にご迷惑をおかけすることとなってしまった。

表2 什器一覧

什器名称	タイプ	サイズ等	数	設置場所
テーブル	楕円形		6	ライティング・エリア
	勾玉形		6	ラーニング・エリア
	台形		10	
	矩形		6	
	会議用	1800×900	6	ワーキング・エリア
		1500×600	8	
		1800×500	4	
フラップテーブル			106	ワークショップ・エリア
椅子	アクティブ・ラーニング用チェア	ブルー	24	ライティング・エリア
		オレンジ	50	ラーニング・エリア
		グリーン	62	ワーキング・エリア
	スタック型チェア	インディゴブルー	106	ワークショップ・エリア
	補助椅子	3色	30	
合計			272	
ホワイトボード	可動式縦型	H1500	6	ライティング・エリア
			9	ラーニング・エリア
	壁取付型	W1800	2	
	可動式横型	W1915	10	ワーキング・エリア
	可動式縦型3連	H1800	3	ワークショップ・エリア
	可動式縦型	H1800	6	
	可動式縦型	H1500	29	
合計			65	
展示パネル	木製R型両面ホワイトボード		2	ラーニング・エリア
書架	(特注品)		1	
ブックトラック	書籍配架用	ミニサイズ	2	ライティング・エリア
キャビネット	備品収納用		2	

## 6. 4つのエリアについて（口絵サエラ参照）

### (1) ワークショップ・エリア

マイクや大型スクリーンを備えたスタジオで、ゼミ発表やガイダンス、小グループに分かれてのディスカッションができる設備となっている。

現在、これまで3階の多目的閲覧室（旧図書館ホール）で行っていた図書館ガイダンスをこちらで行っており、一般の利用予約はガイダンス申込確定後の利用13日前からの受付としている。また利用予定のない時には、(3)のラーニング・エリアと同様にグループ学習に利用させることとしている。

当初から東西の2室に分けての利用を想定して来たが、天井が高くホワイトボードをパーティションとするしかない状態であり、遮音上の心配もあって慎重にすすめていきたいと考えている。

### (2) ワーキング・エリア

16人用1室、8人用2室、5人用6室の個室があり、発表の準備やグループ学習ができるスペースである。4室は14日前から予約を受け付けており、補助椅子を入れれば最大20人以上入れる部屋もあるため、ゼミ単位での利用も可能である。

各室を区切るパーティションは透明なものとし、かつ上部の空間が繋がった形になっているため、お互いの姿や声が刺激になってさらなる学習効果が期待される。また、隣の部屋との仕切り部分には目隠し用のロールカーテンも用意している。

### (3) ラーニング・エリア

ラーニング・コモンズの中心とも言えるスペースで、予約なしに小人数でのディスカッションなどさまざまなグループワークを行うことができる。人数に合わせて、空いている机を自由に組み合わせることが可能である。

### (4) ライティング・エリア

レポート、卒業論文、授業の発表資料（レジュメ・スライド）等、日本語の文章作成について、大学院生のTA（ティーチングアシスタント）が個別にアドバイスを行うスペースである。TAは教育開発支援センター配下のライティングラボから派遣されており、ライティングラボのサイトから予約することができる。

ライティングラボ使用時以外は、ラーニング・エ

リアと同様に利用させている。

### (5) コモンズ・カウンター

ラーニング・エリアの中心に位置し、各種機器の貸出やワーキング・エリアの予約受付と鍵の貸出、その他利用案内を行っている。こちらには学生スタッフと派遣職員を配置している。

データベースの利用指導や専門的なレファレンスサービスについては、レファレンス室のレファレンスカウンターが担当しており、コモンズ・カウンターとの棲み分けを行っている。

なお、椅子の色に合わせた各コーナーのイメージカラーを使用した4つのエリアを示すロゴマークは、プロジェクトメンバーがデザインしたものである。

## 7. 学生スタッフについて

計画時には、大学院生のTAの活用も検討されていたようだが、実質的に計画する段階では、コモンズ・カウンターに配置するスタッフとして、学生スタッフを置くこととなった。

採用に当たって授業支援ステーションのSA採用手順を参考に募集したところ、100名近くの応募があり、面接を行って選考した。1コマ2ないし3時間単位でシフトを組み、1週当たり1人1コマから3コマの範囲で23人に勤務してもらっている。中には、授業支援ステーションのSAや、併設校での授業サポートを行っている学生もおり、積極的に活動してくれて頼もしい限りである。

## 8. 終わりに

開室から1ヶ月ほどたち、利用状況は期待以上の面とそれほどでもない面が交錯している。

ラーニング・エリア、ワーキング・エリアについては、よく利用されている。ゼミなどの多い時間帯のワーキング・エリアの16人用の部屋については予約が重なることも出てきている。またよく利用するリピーターも現れているようで、曜日や時間帯によってはラーニング・エリア、ワーキング・エリアともに満席に近い状況になる場合もある。

グループでの課題学習が増えているのか、ホワイトボードを利用して討議内容をまとめたり、グループで討議をしたりと、大変にぎわっている。ワーキ

ング・エリアでは、プロジェクターで白壁に PC の画面を投影しながら、ホワイトボードにまとめている姿も見られた。

一方、貸出用ノートパソコンについては、ワークショップ・エリアでの多数の利用を認めていないこと、ワーキング・エリアでの予約も極力抑えていることもあって、今のところ全台が貸し出されるという状況は発生していない。ワークショップ・エリア(106席)で、ノートパソコンを配付してイベントを

行うためには、現在の台数(50台)では不足するのは明らかなこともあり、今後の動向や利用者からの要望を注視する必要がある。

今後は、アクティブ・ラーニングを浸透させるためのイベント等の計画が必要と考えている。ワークショップ・エリアで学内者を対象に授業とは異なる催しを行えないか模索していきたい。

(ひろせ まさこ 図書館事務室)